

1ページ

ごあいさつ
社会福祉法人の社会貢献活動事例集 vol.3 発行にあたって

各法人の取り組み
社会貢献事業 | 14法人 |

(50音順)

2ページ

- 一燈園 …………… 2
- 伊呂波福祉会 …………… 3
- 栄光園 …………… 4
- 九州キリスト教社会福祉事業団 …………… 5
- 暁雲福祉会 …………… 6
- 三愛会 …………… 7
- 三光会 …………… 8
- 聖信会 …………… 9
- 泰生会 …………… 10
- 虹の会 …………… 11
- はまゆう会 …………… 12
- 別福会 …………… 13
- みのり村 …………… 14
- 若山会 …………… 15

15ページ

法人としての新たな取り組み
おおいた"くらしサポート"事業

16ページ

社会福祉法人の社会貢献活動事例集 vol.3 発行にあたって

私たち社会福祉法人は、社会福祉法人制度創設の理念に立ち返り、今まで以上に地域の信頼と期待に応えていこうと、平成27年7月、「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」を設置いたしました。

本協議会は、趣旨に賛同する大分県内の社会福祉法人が協働・連携し、生活困窮等の様々な福祉課題を解決し、社会福祉法人としてさらなる役割と使命を果たすことを目的としています。

近年における家族形態の変容や地域での支え合い機能の低下など地域が抱える福祉課題は複雑多岐に渡り、社会福祉法人が果たすべき役割は益々重要となる中、社会福祉法人は、本来の使命を果たすべく、それぞれの地域のニーズを捉え、創意工夫をしながら様々な社会貢献活動を実践しています。

本事例集は、協議会会員である社会福祉法人の様々な取り組みを広くご紹介することで、社会福祉法人の役割を目に見える形でお届けしようと、平成29年3月に初めて発行しました。このたび発行する「事例集vol.3」においても、社会福祉法人がもつ強みを地域社会の中で積極的に活かした取り組みをご紹介しています。

この事例集をご覧いただく皆さまが少しでも社会福祉法人の活動に理解いただき、共に協力し合いながら、豊かな地域社会の構築に携わっていただければ、幸いです。

平成31年1月吉日

大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会



宇佐市の「ほろんの郷」



職員と利用者が一緒に施設周辺の草刈りを行い、地域の人に喜ばれている

手際よく、プロの技

作業に当たるのは毎回10人ほど。ほろんの郷には、麻生の他に就労継続支援B型施設があり、利用者は普段

話す。作業に当たるのは毎回10人ほど。ほろんの郷には、麻生の他に就労継続支援B型施設があり、利用者は普段

「ほろんの郷感謝祭」地域の方への感謝をこめて」を地域密着型で開催した。麻生地域の人に向けて施設の職員や利用者がさまざまな出し物を企画。地域で暮らす多くの人が施設を訪れ、楽しい時間を過ごした。



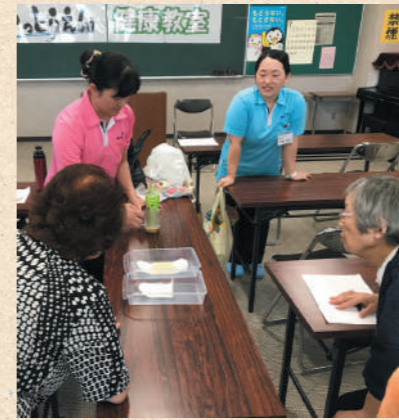
共生型サービスを目指す 渡辺理事長

年3回の草刈り作業

宇佐市麻生、いろは川が流れる山間の里にある社会福祉法人伊呂波福祉会「ほろんの郷 麻生」。地域に根差した社会貢献活動によって住民からの信頼も厚い。過疎が進む地域の中で、社会福祉法人としての存在感が増している。

人手不足軽減へ一役

一燈園発祥の地で地域に恩返しするという神徳博宗理事長の思いを込めて2018年5月にスタートした。対象は地区の一般の人で、高齢者の参加が多い。



毎回職員3~4人が担当

5月の第1回は、サルコペニア(筋肉量が減少し、身体機能が低下している状態)の予防のためにタンパク質を摂取することの重要性を学んだ。6月は梅雨時の健康管理について講演。7月は骨盤底筋って何?というテーマで、

尿漏れ防止に大切な筋肉やパッドの使い方を説明。8月は夏には消化のよいものを食べる大切さと、認知症の予防の話をした。9月は外に出て歩くための杖の使い方や筋力を落とさない運動方法などを解説。10月には志高湖畔でウォーキングも行った。

月に1度、健康教室

別府市内で29の事業所を運営している「一燈園」は月に1回、幅広い話題をテーマに西部地区公民館で健康教室を開いている。

幅広いテーマ学ぶ

蓄えたノウハウ生かし



ウォーキングや、運動方法の解説などを行う



見をしたり俳句を作ったりもする。買物物が不便という声もあり、一燈園のバスを使い買物したこともある。毎年12月の堀田地区の防災訓練にも参加している。認知症がある人が行方不明になることもあるため、一人で歩いている高齢者の捜索模擬訓練も行う。岩崎さんは「少しの手助けがあれば地域で生活することができると高齢者は多い。認知症などについて地域の人に知ってほしい」と話している。

社会福祉法人 伊呂波福祉会

住所 〒879-0501 宇佐市大字麻生307番地の1

TEL (0978)36-2005

理事長 渡辺浩二郎

運営施設(事業所) ほろんの郷麻生、ほろんの郷四日市、グループホーム、相談支援事業所「台ノ原」



社会福祉法人 一燈園

住所 〒874-0831 大分県別府市堀田4組(大字南立石347番地)

TEL (0977)25-8888

理事長 神徳博宗

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム「一燈園」、住宅型有料老人ホーム「堀田一燈園」、特別養護老人ホーム「石垣一燈園」、サービス付き高齢者向け住宅・特定施設入居者生活介護・ケアハウス「サンクレーンいっとうえん」、サービス付き高齢者向け住宅・特定施設入居者生活介護「メゾン・ド・いっとうえん」



中津市の「いずみの園」



問先へ向かう。
アルコール依存を抱える60代男性の家は、少し前までゴミ屋敷状態だったという。親族からの相談で支援に結び付いた。干渉を嫌う男性と徐々に関係を築き、家を一緒に片付けるまでに至り、現在は自立に向けて支援している。

この日、野見山さんは3軒を訪ねた。認知症の症状がある80代の女性宅では、机に手をつけていないおにぎりや総菜と一緒に菓が無造作に置かれていた。「ごはん、食べたかな？ 大切なお菓やけん、今飲もうね」と声を掛ける。夫に地域で開かれる認知症の勉強会を案内し、次の訪

くらしサポート事業

「誰もなりうる可能性がある」と野見山さんは話す。くらしサポート事業を通して、地域の中には、社会制度につながるできないまま困っている人が多くいることを実感している。
「お金の面だけでなく、その人がいかに暮らしているかをサポートするのが役目。ゴールをどこに持つていくか、その答えはそれぞれ違います。おおいたくらしサポート事業は、困っている人を支える有効な手段。多くの人に知ってほしい」と話していた。

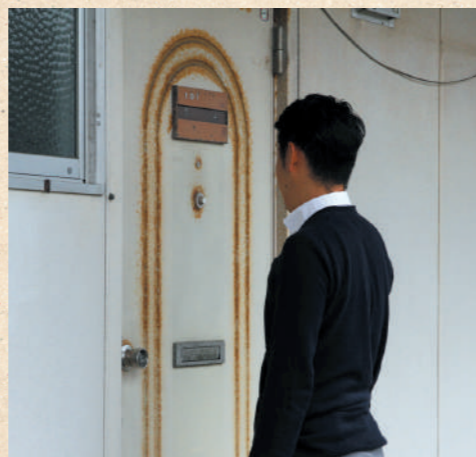
生活再建へ寄り添う

生活に困っている人たちに寄り添い、訪問・相談を通じて必要な制度につなぐ「おおいたくらしサポート事業」。九州キリスト教社会福祉事業団中津総合ケアセンターいずみの園(中津市)でも、年間約40件の支援を行っている。同園でくらしサポート事業に当たる地域公益課の野見山見課長の活動に同行した。

次は宇佐市へ。屋根が崩れてしまった家に暮らす親子3人は、夫がギャンブルでお金を使ってしまう、長年にわたって生活が困窮していた。フードバンクから提供を受けた食材を渡し、現在の状況を聞き取った。
失業や虐待、DV、けが、病気―。生活困窮に陥る原因はさまざまだが



屋根が崩れてしまった家。親子3人が生活に困窮しており、フードバンク提供の食材を渡した



訪問活動を通じて生活に困っている人たちに寄り添う

必要な社会制度につなぐ

別府市の「栄光園」



年2回、「きっさ」を開催



2018年11月に開かれた里親きっさ。「みんなと話したい」という里親たちの声を実現した

里親同士語り合う

「いつか、実親の元へ帰ることを考えると胸が苦しい」「真実告知はどのようにするのがいいでしょうか」「毎日できることが増えていくのが本当にかわしい」「子どもの面白い言動に成長を感じるの、書き留めていますよ」。別府市の乳児院「栄光園」は年2回、「里親きっさ」を開催。里親同士が気軽に話し合える場を提供している。

共感できる悩み、喜び

2018年11月に開かれた里親きっさには、就学前の子を育てる養育里親と特別養子縁組里親、里親支援専門相談員ら15人ほどが参加。お茶とお菓子を楽しみなながら、同じ立場だからこそ共感できる悩みを相談し、子育ての喜びを分かち合った。
県内に乳児院は同園だけ。生まれてすぐの赤ちゃんから2歳ごろまでの幼児を養育している。「えがおで、やさしく、十分なスキンシップ」を基本にした家庭的な関わりで、心と体の土台づくりを充実させている。
厚生労働省は「新しい社会的養育ビジョン」(17年)などで、家庭的養育を優先する理念を明確化。県も以前から、家庭での生活を通して特定の大人と愛着関係を築くことが重要と、里親制度を推進してきた。熊谷登喜子施設長は「施設としては子どもと里親にとつて安心できる状態でつなぐ役目をしています」と話す。
県内の里親登録者は197組(18年3月末現在)。「里親を支援していくことが、子どもの支援につながる」として、里親きっさを続けている。
「とにかくみんなと話したい」という声が多く、情報交換の場になっていきます。子育て中の普通のお母さんたちと悩みは一緒でも、里親という気負いがあがる。ここでは里親同士がアドバイスし合え、気持ちも楽になるよつです。同園の里親支援専門相談員、本庄公多子さんは、取り組みの意義を感じている。

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団

住所 〒871-0162 大分県中津市大字永添2744番地
TEL (0979)23-1616 HP <http://www.izuminosono.jp>
理事長 富永健司

運営施設(事業所) 高齢者福祉事業(特養・ケアハウス・戸建有料老人ホーム・在宅サービス 他) 障がい福祉事業(基幹相談支援・就労継続・生活介護・地域活動支援センター 他) 児童福祉事業、子育て支援事業、人材育成・研修事業、生活困窮者等に対する相談支援事業(おおいた「くらしサポート」事業) 社会貢献活動推進事業 など



社会福祉法人 栄光園

住所 〒874-0904 大分県別府市南荘園町3組
TEL (0977)21-8085
理事長 江口敏一

運営施設(事業所) 児童養護施設栄光園、乳児院栄光園、青山保育所、野口保育所



大分市の「そうだ藤の森」



栄養バランスの整った季節のメニューが並ぶ

そうだ藤の森があるのは大分市郊外に位置する寒田地区。高齢化が進む中で、「体が弱ると家に閉じこもりがちになり、生活の質が低下してしまふ。外に出るきっかけとして交流の場を設けようと考えた」と副施設長の甲斐一之さんは話す。

料理教室は毎月第2木曜日に開かれ、参加費は500円。同市田尻の関連施設「天領ガーデン」で2015年から始まった。そうだ藤の森で管理栄養士を務める深江美香さんが講師になり、寒田ボランティアのメンバーがサポートする。

地域住民と料理教室

教室の最初は介護予防のミニ講話。嚥下（飲み込み）をテーマに、深江さんが「嚥下は皆さんの『おいしい』を維持するために大切ですよ」と話し、嚥下飲み込みんだりする力が弱くなった際の料理の工夫や、簡単にとろみを付ける商品を紹介した。

この日のメニューは鮭のホイル焼きと人参シリシリ、揚げなすのおろし和え、ゴボウ汁、カボスセリ。深江さんが考える季節のメニューは栄養バランスもばっちり。70代から80代の男女3人の参加者が分担して調理した。参加した女性は、「みんなと料理すると楽しいし、家でのレパートリーも増えました。講話も勉強になります」と笑顔。毎月のこの時間を楽しみにしているという。

「施設として地域での役割を果たしていけるよう、介護予防など地域の人と一緒にできることを続けていきたい」と甲斐さん。愛着ある地域で暮らし続けたいという住民の思いに、社会福祉法人として寄り添う。

”おいしい“交流

地域の人が気軽に集える場を提供したい。社会福祉法人三愛会の特別養護老人ホーム「そうだ藤の森（大分市）」は、施設の管理栄養士と協力して地域住民が参加するふれあい料理教室を毎月開いている。料理のレシピだけでなく、介護予防の知識も学べると評判だ。



料理教室ではミニ講話も行う。この日は嚥下（飲み込み）をテーマに料理法などを紹介



介護予防のミニ講話も

玖珠町の「ウインド2」



多目的ホール「森の米蔵」

旧機関庫そば「森のクレヨン」



カフェレストラン「玖珠・森のクレヨン」

障がいのある人たちが生き生きと働ける場として、食と文化の提供で観光の一翼を担う施設として、旧豊後森機関庫（玖珠町）が見渡せる地に2018年6月、カフェレストラン「玖珠・森のクレヨン」と多目的ホール「森の米蔵」がオープンした。

玖珠の観光拠点で接客

線路を挟み、豊後森機関庫公園に隣接。昭和初期に建てられた米蔵2棟があり、ホールはリノベーションで再生。カフェレストランは雰囲気を保ち新築した。レストランでは特Aランクの玖珠米を使ったメニューや焼きたてのパンなどを提供。大きな窓の間近を列車が走り、鉄道ファンや親子連れ、住民らが集まる。

障がいのある5人が大分市から移住。地域の一員としてグループホームで共同生活を送りながら、核となり働く。森田圭次さんは「列車が通るタイミングを覚えていて、お客さんに説明すると喜んでくれます」と自ら工夫する。梅木美香さんも「小さい子が来ると声を掛けています。もっと接客がうまくなりたい」と意欲的。一人一人がこの場所に必要存在だ。

障がい者の就労の場をつくるという同時に観光を担ってほしいと、玖珠町が社会福祉法人暁雲福祉会（大分市）を誘致。法人は、町内初の就労継続支援事業A型と就労移行支援事業からな

障がいのある人、生き生き



グループホームで共同生活を送りながら働いている

る事業所「ウインド2」を設立。日本財団（東京都）の障がい者就労支援事業のプロジェクトとして、助成を受け整備した。財団の尾形武寿理事長は、「障がいのある人をどう町の中に受け入れるか、全国のモデルになるような施設にしたい」とする。

「障がいのある人が中心となり、観光拠点として町の活性化の担い手となる。社会福祉法人の社会貢献の、新しいあり方といえるのではないのでしょうか」と法人の丹羽和美常務理事。「玖珠町地方創生プロジェクト」。地域と共に歩むさまざまな展開を思い描いている。

社会福祉法人 三愛会

住所 〒870-1123 大分市大字寒田202番地
TEL (097)567-8822
理事長 半澤一邦

運営施設（事業所） 特別養護老人ホームそうだ藤の森、そうだ藤の森サービスセンター、そうだ藤の森介護保険相談センター、天領ガーデンふれあい館、看護多機能ホームふじっこ、訪問看護ステーション天領ガーデン、ヘルパーステーション天領ガーデン、サービスセンターひなたや、元気デイきらら、特別養護老人ホーム天領ガーデン



社会福祉法人 暁雲福祉会

住所 〒870-0025 大分県大分市坂ノ市西2丁目4-3
TEL (097)524-2424
理事長 丹羽一誠

運営施設（事業所） 八風園、ウインド、ウインド2、八風・be、八風・マナス、八風・マアヤの園、放課後等サービス「風の子クラブ」、指定特定相談支援事業所「風と未来」



中津市の「悠久の里」

つながる場カフェ三歩

さまざまな理由による社会的孤立から「つながる場」に。中津市の特別養護老人ホーム「悠久の里」は2018年7月、「オレンジカフェ三歩」を開設した。月に一度、認知症の人や家族だけでなく、近隣住民らが集まり会話を楽しむ。



毎月開かれる「オレンジカフェ三歩」。調理は高校生が担当する

それぞれ役割見つけ

9月の屋下がり。通り抜ける風が心地よいホールに集まったのは、ご近所同士のグループや介護経験者ら、さまざまな立場の約20人。ドリンクとスイーツ(300円)のセットを楽しみながら、話に花を咲かせる。

開始当初から、東九州龍谷高等学校物料の3年生が調理で参加している。この日のメニューは抹茶プリンとスイートポテト。自分たちで考案したレシピだ。同科主任の川端久枝教諭は「介護施設などの調理部門や給食業者に就職する生徒もいる。現場を体験できることは大きな意味があります」と強調する。

接客は認知症の人が担い、準備や受付、季節の飾り作りなどを引きこもった生活をしていた人が担当。介護相談は経験のある家族が受けている。豆柴の「COCO店長」も場を和ませる。6人で参加した女性たちは「こ

認知症の人、住民、高校生

して集まる機会もなかなかない。若い人の顔が見られて新しい話が聞けて、お菓子も味付けが良くておいしかったです。「三歩」の理念は「365歩のマーチ」(水前寺清子)の歌詞そのもの。みんなで元気に歌ってお開きとなる。

「オレンジカフェに集まる人は、どうしても年齢層が高くなりがち。若い世代を巻き込んで、自然な形で認知症に接する仕掛けがあるので、生徒さんたちに入ってもらいました」と担当の酒井久美子さんは話す。

松永卓也施設長によると、以前デイサービスに使っていた部屋を活用して「地域に役立つ何かができないか」とオレンジカフェを始めた。酒井さんは「地域の中で孤立しがちな人の役割を生む場所にもしたい」と話している。



調理を担当する高校生とも交流

中津市の「さわらび」

毎月「オレンジカフェ」

高齢化が進む中、県内でも多くの認知症の人が暮らしている。社会福祉法人聖信会の地域密着型特別養護老人ホーム「さわらび」(中津市)は、地域ぐるみで認知症の人やその家族をサポートする「認知症カフェ(オレンジカフェ)」を毎月開いている。

認知症の人やその家族をはじめ、地域の人や専門職、ボランティアなど、認知症に関心のある人が気軽に集い、交流する「オレンジカフェさわらび」。聖信会理事長で認知症サポーター医の古川信房医師の発案で2017年11

月に始めた。利用は1人100円で、特に決まったプログラムはなく、地域のボランティアが中心となって会を盛り上げている。

会場はさわらび2階のオープンスペース。窓の外には今津地区の田園が

和やかに語り合い、ふれあい

広がる。この日のオレンジカフェには20人ほどが参加した。最初にギター伴奏に合わせて「青い山脈」などを合唱し、牛乳パックを利用して綺麗な小物入れの箱を作った。和やかな雰囲気の中で1時間半があつという間に過ぎていった。表情が乏しかったり、もの忘れの兆候があるなど、気になる症状がある人には個別に相談に乗ることも。「古川医師がスーパーバイザーを務めているのはとても心強い」と宝珠山照人施設長。



ギターの伴奏に合わせて合奏。地域の人々が気軽に集う場となっている

高齢の住民も誘って



牛乳パックを利用して小物入れを作製

ポランティアの女性は「オレンジカフェができたことで、気になっていた1人暮らしのお年寄りに、一緒に行ってみよう」と声を掛けやすくなりました」と話す。参加者の80代女性は「地域のひとと話すのが楽しみ。ここに来ると元気が出ます」と笑顔を見せた。

宝珠山施設長は「住民同士が助け合うことで、認知症になっても暮らしやすい地域づくりができます。これからは地域の人が活動しやすいようバックアップしていきたいです」と話す。社会福祉法人として、誰もが暮らしやすい地域を共につくる。

社会福祉法人 聖信会

住所 〒879-0103 大分県中津市植野241番地1

TEL (0979)33-1138

理事長 古川信房

運営施設(事業所) 特別養護老人ホームさわらび、シヨートステイさわらび



社会福祉法人 三光会

住所 〒871-0162 大分県中津市大字永添945番地

TEL (0979)26-0760

理事長 那須千代

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム悠久の里、サテライト型特別養護老人ホーム悠久の里



大分市の「アイリスおおいた」

大分市の東原公民館に約20人の高齢者が集まった。頭を使いながら運動することで学習記憶をつかさどる海馬を鍛える「グニサイズ」についてアイリスおおいたの職員が説明。物忘れなどの予防につながるという。数を数えながら体を動かすなど、一定のルールに従って何種類かの運動をする。ルールが少しずつレベルアップすると、声を出してはいけない場面思わず声が出たり。和気あいあいと30分ほど運動を楽しんだ。

続いて脳トレ。多くの血液が流れることで、脳の萎縮を遅らせることができる。クイズ形式での出題に会場は盛り上がる。5種類のクイズを20問程度出題したが、「もっと難しい問題にしたい」という声も上がる。楽しみながら介護予防を目指す1時間だった。



20人ほどの高齢者が集う

運動、脳トレに挑戦

「何か楽しいことをしてほしい」。あるふれあいサロンの会長から相談があったことをきっかけに出張講話は始まった。健康講話や高齢者施設の種類の説明など、可能な限り高齢者からの要望に添えている。

アイリスおおいたなどを運営する「虹の会」では新たに地域戦略室を設置し、2018年4月から3人の職員が中心となつて活動している。ふれあいサロンをはじめ、公民館などでの健康教室に出向き血圧測定を行う他、施設交流スペースを地域に開放し、施設選定の際の基準などを学べる施設見学会も開催している。認知症サポーター養成講座では地域住民や近隣の他事業所とも連携している。

地域戦略室を担当する佐藤真理室長は難しいことではなく高齢者の皆さんが楽しみながら続けられるものをピックアップして取り組みたい。地域に出向き活動することで、他にもニーズがあることが見えてくる。活動の幅を広げていきたいと話している。



運動や脳トレなど和気あいあいと楽しく過ごす



ふれあいサロンで出張講話

楽しく、頭と体使う

大分市の特別養護老人ホーム「アイリスおおいた」は地域のふれあいサロンに職員が出向いて「出張講話」を行っている。健康講話や介護の知識など、住民のニーズに合わせた活動が好評だ。

宇佐市の「泰生会」

認知症研究会を30年

入居者へのサービスだけでなく、そこでの経験や実践を科学的に観察、記録、分析し、その技術を地域や関係機関に還元し、地域福祉、在宅介護に役立てたい。宇佐市の「泰生会」は1988年から認知症の事例研究会を開いている。

医師でもあった前理事長の故雨宮克彦さんは「認知症の人々は治療ではなく環境が左右する」との考えで、「安心して生活の場をつくる」という理念の下、認知症の人を対象にした特別養護老人ホームを宇佐市と別府市に造った。長寿社会の到来を見据えて活動を始めたが、当時は認知症に対する理解も研究も進んでいなかったことから、認知症の介護技術を勉強する場を提

「生活の場」をつくる

供するために「大分認知症ケア事例研究会」をスタートさせた。

事例研究会は2カ月に1回程度、行政、施設関係者、社協、介護支援専門員、専門職等を対象に別府や宇佐の施設で行っている。事例を紹介し、講師がアドバイスを。理事長の雨宮洋子さんは「研究会を通して認知症高齢者の介護技術の向上を図るとともに、関係者、関係機関の横の連携を深め、ネットワークを確立したい」と



「大分認知症ケア事例研究会」の様子

事例紹介、アドバイス

「困っている人がいれば公的制度的あるなしに関わらずサービスを開始する」という思いから制度ができる前からいろいろな取り組みを始めた。認知症の人向けのデイサービスや地域の公民館などに出向くサテライト型のデイサービス、グループホームのモデル事業、食事が作れない人への給食サービスも全国でいち早く取り組んだ。

介護教室は毎月1回、在宅で介護している人を対象に行っている。一般の人も含め20〜30人が集まり、介護の専門職らが講演、質問を受け付けている。毎年8月には宇佐と別府で地域の人を招いて盆踊り大会や夏祭りを開く。200〜300人が集まり、入所者やその家族と地域の人々が触れ合い楽しいひと時を過ごしている。



毎年地域の人を招き盆踊り大会や夏祭りを開催

社会福祉法人 虹の会

住所 〒870-0126 大分県大分市大字横尾4451-8
TEL (097)503-1755
理事長 森田広美

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム「アイリスおおいた」、高齢者総合福祉施設「アイリス清心園」、サービス付き高齢者向け住宅「アイリスつるさき」「アイリスあけの」、障害者支援事業所グループホーム「アイリスVOY」、アイリスおおいたデイサービスセンター、アイリスおおいたホームヘルプサービス、アイリスあけのデイサービスセンター



社会福祉法人 泰生会

住所 〒879-0474 大分県宇佐市大字山下2100番地
TEL (0978)33-1778

理事長 雨宮洋子

運営施設(事業所) 総合ケアセンター泰生の里「宇佐」、総合ケアセンター泰生の里「別府」



別府市の「福祉の森」



地域住民と連携して防災強化に取り組む

避難訓練や介護教室

別府市を望む別府市両郡橋に2015年5月、両郡橋事業所を開設した。人口は少ないが、利用者の心も和らぐ風光明媚な場所。開所当時から、交通安全運動や盆踊り、敬老行事に参加するなど地域との連携は絶えず行っている。

両郡橋自主防災会と協力し、18年4月に避難訓練をした。模擬サイレンを鳴らした後、地域住民30人が公民館から避難所となる事業所まで移動した。東日本大震災など各地の現場で活動してきた別府市防災危機管理課の村野淳子さんの講演を聞いた。講演会の後は、子どもたちを含む住民が消火器を実際に使用して消火方法を学んだ。市の補助金で自動体外式除細動器(AED)も導入した。福祉の森理事長の北地輝昭さんは「住民の方々も積極的に参加してくれ、今後の防災強化に向け自主防災会との連携に期待できると話す。

両郡橋地区に行くには別大国道からJR日豊線の高架を潜らなければならず、大型の消防車などは通ることができ

日頃の備えを大事に



介護教室で行われた劇団「希望」の劇

ない。日頃の備えが重要で、地域のひと2カ月に一度、話し合いを持っている。今後予想される大きな災害時に、施設として何ができるかを模索している。

8月には介護教室も開いた。大分県介護研修センターで講師をしていた人が活動する劇団「希望」が認知症の患者とその家族を描いた劇を演じた。何百回と演じてきたベテラン団員たちのユーモアを交えた劇に観客は引き込まれていた。福祉の森の職員が講師となり、認知症サポーター養成講座も開いた。最後に参加者にオレンジリングを渡した。

地域包括ケアシステムの基礎は小さな地域のネットワーク。「施設は孤立してはいけない。普段からいかに地域との相互関係を築けるかが鍵になる」と北地さんは話している。

育て地域のネットワーク

別府市の社会福祉法人「福祉の森」は運営する四つの事業所で、法人の理念である「利用者主体と地域連携」の実践を目指している。

佐伯市の「はまゆう」



管理栄養士が考えた献立を個人の体調に合わせて提供



2人の配達員で各戸訪問。安否確認にもなっている

食で高齢者支える

南北に細長い地形の佐伯市蒲江。そのちょうど中ほどに位置する特別養護老人ホーム「はまゆう」は、配食事業を展開している。サポートを必要とする旧町内の高齢者らを、食事の面から支える。

バランスの良い夕食

ご飯と汁物、主菜、副菜。管理栄養士が考えたバランスの良い夕食が専用の容器に詰められる。独居の高齢者や高齢夫婦など、利用者はさまざま。月々金の週5日、1食5000円で届けている。施設の厨房で委託の給食業者が調理。刻み食やご飯多めなど、個人個人の体調に合わせて提供する。

日高昇治事務長は「買い物になかなか行けない人や、せめて夕食はバランスの取れた献立を」と家族が考えているケースなど、利用者の事情もさまざまです」と説明する。

各戸を回るのは2人の配達員。午後3時半ごろから2台の車でそれぞれ北と南に向かい、30食ほどを届ける。

各戸巡り週5回届ける

玄関まで出てくる人に手渡しする場合もある。家の上がってテーブルに置き、ふたを取るところまで手伝う場合もある。毎日のように訪問することで小さな変化に気づき、安否確認にもなっている。

配達員の女性は「玄関先から呼び掛けて『はい』と返ってくる声に、元気がないことがある。そんな時は大丈夫ですかと確認します。心強く思っていただけではないのでしょうか」と話す。

配食事業自体は旧蒲江町時代、町による配食サービス事業の委託を受け始まった。市町村合併後の現在も、施設独自の事業として続けている。

「昔はそれぞれの地区に店がありましたが、今は買い物も難しい。市内や近郊に子どもが住んでいる人も多いですが、毎日来られるわけではないですね。移動販売や戸別配達も毎日ではありませんよ」と日高事務長。必要な場所に必要なた支援を届ける活動の意味は大きい。



社会福祉法人 別福会

住所 〒874-0036 大分県別府市上平田町11組
TEL (0977)85-8262
理事長 北地輝昭

運営施設(事業所) 身体障害者福祉ホーム(地域活動支援センター・障害者相談支援含)、訪問介護事業所、小規模多機能型光町事業所、小規模多機能型両郡橋事業所



社会福祉法人 はまゆう会

住所 〒876-2401 大分県佐伯市蒲江大字蒲江浦1344番地1
TEL (0972)42-1886
理事長 日高嘉己

運営施設(事業所) 特別養護老人ホームはまゆう、住宅型有料老人ホームすまいるはまゆう、はまゆうショートステイ、介護保険サービスセンターはまゆう、蒲江デイサービスセンター、はまゆうヘルパーステーション、佐伯市蒲江生活支援ハウス



由布市の「若葉苑」



毎月第3日曜日に開催する「ゆふ支え愛子ども食堂」

誰もが 集える場 提供

にぎやかに食卓囲む

子どもはもちろん、地域のみんなが寄り合える場を。大勢でにぎやかに昼食を楽しむ「ゆふ支え愛子ども食堂」は、由布市の湯布院、庄内、挾間の3町で毎月開かれている。挾間町では特別養護老人ホーム「若葉苑」が運営を担い、2018年4月に始まった。

ちらし寿司、唐揚げ、マカロニサラダ、そうめんの吸い物、庄内のナン。心のこもった料理がテーブルに並び、大人も子どもも一緒に席に着き、約60人が元気に「いただきます」。

由布川地域交流センターで毎月第3日曜日に開催。家族全員で訪れる人もいる。参加費は小中学生100円、高校生以上が200円。未就学児は無料だ。食後の子どもたちは卓球や輪投げ、射的といった遊びに熱中。ボランティアが披露する手品に目を輝かせる。

由布市では17年、市内14の社会福祉法人が連携し「由布市社会福祉法人施設経営者協議会」を設立。市社会福祉協議会を事務局に、協力して社会貢献活動を進めている。子ども食堂もその一環だ。

「子どもさんたちを入り口にすると、お母さん、お父さん、高齢者、いろんな人が気軽に入ってこられる雰囲気になり、地域の皆さんを巻き込めると考えました」。若葉苑の原田楨二

ゆふ支え愛 子ども食堂



地元のボランティアが心のこもった料理を作る

施設長はそう語る。開催日には毎回、地元ボランティア10人ほどが出て、ときはきと調理する。女性らは「(年を取れば)いずれ地域のお世話になる。できる時にこうしてお役に立ててうれしいですよ」と笑顔を見せる。

「和気あいあいと近所で寄り合う機会が、昔はもつとありました。子ども食堂はそんな場を取り戻す、一つのきっかけになるのではないのでしょうか。力を持ち寄って発揮してもらえよう、人材を発掘する役目もあると思っています」と原田施設長。誰もが集える環境づくりを、地域ぐるみで進めている。

社会福祉法人 若山会

住所 〒879-5502 大分県由布市挾間町向原1215番地2
TEL (097)540-7880
理事長 千島慶子

運営施設 (事業所)

特別養護老人ホーム若葉苑、地域密着型特別養護老人ホーム若葉苑ユニット型、若葉苑ショートステイサービス、若葉苑ショートステイサービスユニット型、若葉苑デイサービスセンター「ドリーム」、ヘルパーステーションわかば、わかば介護保険サービスセンター、地域密着型デイサービスセンター「わかばの郷」、在宅介護支援センター若葉苑



日出町の「白百合園」



活動は元気なあいさつから始まる。10人それぞれが自分の持ち場できびきびと掃除

大神駅の清掃30年

触れ合いを大切に

日出町の障害者支援施設「白百合園」の入所利用者、スタッフらは30年以上、施設の最寄り駅であるJR大神駅の清掃活動を続けている。駅を使う人が気持ちよく過ごせるよう、隅々まで丁寧に掃除。きれいに保つことの達成感や「いつもありがとう」という声掛けが、生活の充実や笑顔につながっている。

「駅の掃除にきました」。午前10時、活動は元気なあいさつから始まる。10人の利用者は持ち場につき、慣れた様子で作業に取り掛かる。トイレ掃除をする人、待合室や構内の床を掃く人、ベンチや窓のサッシなどを雑巾で拭く人、駐車場の草取りをする人…。きびきびとした動きで、それぞれの役割を懸命にこなす。田原国義駅長は「小さいころに目が行き、こまめに掃除してくれる。助かっています。みんながきれいに駅を利用する意識付けにもなる」と目を細める。

活動は週1回程度。天候も考慮しながら実施する。10人程度のグループで、道路のごみ拾いをしながら20分ほどかけて歩いてくる。

地域の一員として何かに役に立てたら、施設のことを知ってもらえればと、30年ほど前に始めた。「駅長さ

「ありがとう」 の声に笑顔



利用者が地域の人と交流する場にもなっている

んと話したり、施設の外に出て地域の方と会い、あいさつをする機会が持てる。声を掛けられると利用者さんも笑顔になり、励みになっていきます」と職員塩入智加さんは説明する。

利用者は施設の中で生活する時間が長いため、まちの景色を楽しみ、住民らと触れ合えるこの時間を楽しみにしているという。住民も施設の存在は知っているても、どんな利用者が住んでいるかは分かりにくい。清掃活動は互いのことを知り、理解を深める良いきっかけになっている。

同園は「今後はより多くの利用者が地域の方たちと交流できるよう、皆さんが気軽に遊びに来られる機会をつくりたい」としている。

社会福祉法人 みのり村

住所 〒873-0013 大分県杵築市大字日野1921-7
TEL (0978)66-1200
理事長 大木隆

運営施設 (事業所)

特別養護老人ホーム 菩提樹、デイサービスセンター、ヘルパーステーション、福祉タクシー、配食サービス、障害児施設 第1みのり学園、障害者施設 第2みのり学園・白百合園・白萩園、児童発達センター プリンちゃん、就労事業所 みのりスマイル・ワークセンター 誠 など





社会福祉施設総合損害補償 しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間 1年

▶保険金額		▶年額保険料(掛金)			
	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)	定員	基本補償(A型)	
賠償事故に対応 お見舞い等の各種費用	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円	1~50名	35,000~61,460円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円	51~100名	68,270~97,000円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円	以降1名~10名増ごと	1,500円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円		
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円		
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円		
	新設 徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円		
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円		
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度		
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円		

▶年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) + 見舞費用付補償(B型) = 基本補償(A型) + 保険料 + 【見舞費用加算】
 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

●オプション1 ●訪問・相談等サービス補償
 ●オプション2 ●医務室の医療事故補償
 ●オプション3 ●看護師の賠償責任補償
 ●オプション4 ●借用不動産賠償事故補償
 ●オプション5 ●クレーム対応サポート補償 **新設**

2 個人情報漏えい対応補償 3 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償 (普通傷害保険)

1 入所型施設利用者の傷害事故補償 2 通所型施設利用者の傷害事故補償

(10口まで加入できます)

保険期間 1年、職種別A級

▶保険金額		▶年額保険料(掛金)	
	1口あたりの補償額		定員1人1口あたり
死亡保険金	100万円	①入所型施設利用者	1,310円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4~100%	②通所型施設利用者	990円
入院保険金(1日あたり)	800円		
手術保険金	入院中の手術: 入院保険金日額の10倍 外来の手術: 入院保険金日額の5倍		
通院保険金(1日あたり)	500円		

③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償
施設送迎車に搭乗中のケガに対し、プラン2-①、②の傷害保険や自動車保険などとは関係なく補償

プラン3 施設職員の補償 (労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

2 施設職員の傷害事故補償

(10口まで加入できます)

保険期間 1年、職種別A級

▶保険金額		▶年額保険料(掛金)	
	1口あたりの補償額		定員1人1口あたり
死亡保険金	140万円	施設役員・職員	3円(1日あたり)
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4~100%	1名1口あたり	780円(年間:週5勤務の場合)
入院保険金(1日あたり)	1,500円		
手術保険金	入院中の手術: 入院保険金日額の10倍 外来の手術: 入院保険金日額の5倍		
通院保険金(1日あたり)	600円		

① 施設職員の労災上乗せ補償
●オプション: 使用者賠償責任補償 **改定**
 ③ 施設職員の感染症罹患事故補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償 (賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償 **改定**

保険期間 1年

▶保険金額	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
1事故・期間中	5,000万円	1億円	3億円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

© SJNK17-17291 2018.1.12 作成

「おおいた“暮らしサポート”事業」 (生活困窮者等に対する相談支援事業)

この事業は、大分県内の社会福祉法人(施設)で構成する「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」が実施します。各施設が互いに連携、協働し、既存の制度では対応しきれない狭間の問題や、生活困窮などの課題を社会福祉法人としての「強み」を活かして迅速に解決することを目的としています。

みなさんの暮らしにまつわる相談を受けつけます。失業、虐待、けがや病気が原因で生活に困っている人はいませんか?

